



半島雜感

綠雨生

釜山に上陸したるは去らせ、子は鶴鳥の様に「ガ」十五日。それより京城で「ガ」泣く。インテリ青泊して今日となつた。合計年は日本語を巧みに談し余五日の滞在である。右の首が風姿の異色あるを見て驚きに「ニコモ」出来気分異様に打たれる。やがて彼しく醫師の治療を受けた。談しかく。余も胸を開いて旅子の病むまじ一片の哀感をそつてやませ。

自分此の度の壯行を決意して以来一切の感傷を放りて、女自分の前にすはる。止して断然強忍の人となし、決心であつた。が、か今瓜實類、して吐くく白く、京城の一旅舎、病む身となれば、遙かに故山に思ふ。多忙の身にあらすし、財布置ければ、か、妓女、幾時低唱晩秋一夜の勸、さしたるの。阿、今日、十時南總督。三時には朝鮮ホテルに徳王と會見。され、大略へ。待望の大略へ。さようなら

今日午後四時急行にて一路北京に發す。今年島を去る、及んで感慨交々である。一言に盡せば「國亡びて山河も」に盡く。しが、半島人は幸福の生活を営む。強豪大日本の擁護下、彼等「安居樂業」の人生を送りつつある。車中の老翁は長煙管をプカ〜とふかしつつ半眠の有様。小山の中腹まで開拓され、田圃、今や刈り入り時。農民は、こゝと仰らる。牛馬、牧として、身計にまよ、いつく生活苦ありや。又生活難ありやと考へらる。

枯れた草からこぼろぎ 鳴いたおしんは 里の母さ 想へた納骨の中からこぼろぎ 鳴いたおつかひ 村山 俊太郎

Table with weather forecast and other small notices.

天氣豫報 今晩も明日も北西の風晴

と運しよものは何處に... 夢かも知れぬ。しかし、忠彌は、どうも夢とは思へなかつた。頻りにいやな愚説が、人心を刺した。

漢口陥落 珠雲 小野務平 (其一) 包圍陣成意軒部 蔣野野去路茫茫 依險探探品死守 皇軍一舉拔金湯

今日の手は悪かつた。弱い尻をつかまれて居るだけにして、どうすることもできなかつた。 「一口に五百兩と言はれ

隠密小天狗 (173) 中川雨之氏作 近藤 鐵氏書

故矢吹長貴曹長追悼句 (順序不同) 國玉 碧笑

追悼歌 大君の御盾にかりて散りにける 君が功績は記るに忘れじ

追悼歌 大君の御盾にかりて散りにける 君が功績は記るに忘れじ

追悼歌 大君の御盾にかりて散りにける 君が功績は記るに忘れじ

追悼歌 大君の御盾にかりて散りにける 君が功績は記るに忘れじ

追悼歌 大君の御盾にかりて散りにける 君が功績は記るに忘れじ

追悼歌 大君の御盾にかりて散りにける 君が功績は記るに忘れじ

追悼歌 大君の御盾にかりて散りにける 君が功績は記るに忘れじ

追悼歌 大君の御盾にかりて散りにける 君が功績は記るに忘れじ

追悼歌 大君の御盾にかりて散りにける 君が功績は記るに忘れじ

追悼歌 大君の御盾にかりて散りにける 君が功績は記るに忘れじ



丸橋忠彌をさがす無くて、決して長くとは申さぬ、は、一命に關するといふ運くとも三月、早ければ二月、瀬戸際なので。月、どうかその間待つて、それでは、せめて、百兩買ひたい。五百兩の元金をくらんで、御幸抱を願ひて千兩にして、キツトお返し申す。

國民精神總動員... 日本國民・必見の書... 寫眞週報 (1部10セシ) ... 西村藥局 (電3)

支部昇格大擴張 社員招聘 一、所長、部長、幹部社員五名 一、監督外務社員 若干名 一、内勤女事務員 若干名

富岡株式會社 實株ハ買ツテ御手元へ 必ズ儲カル優良株 投資指針 平市四丁目三十三 電話二五八

日本姓名學會東北支部長 鷗沼孝昌 平市紺屋町 三六

社員募集 年給二十五才以上者 一、三名 給料其他委細面談の上 常陽證券株式會社 平市三 電話七八四番

一升白菊 景品附特賣 一升お買上毎に新築白菊 一わらすに出る 武久貯金器 壹個差上ります。 早い者勝ち 毎月廿日公休日 廣瀬支店 電話五十四番

故障のラジオ 放送局指相談所へ 御買求めは... 測定装置 検修完備の弊店へ 日本放送協會指定 ラジオ相談所 且K型受信機配給所 富永ラジオ店 平市駅前 電話四九六番

和洋 建築 家具 製作販賣 片寄製作店 電話四八四番

平製米會社 白エタ ビ甘 魚ビマナ 魚帆立貝柱 冷カツノコウニ貝焼

福島縣立代用精神病院 郡山脳病院 郡山市外大槻村針生 電話九二五番

白土醫院 內臟外科 肛門病科 皮膚科 泌尿器科(婦人科) 生殖器科(性病科) 平市字鎌田町 電話二七九

水野化粧院 御婚禮御着附 洋和 結髪 ウエー プ オゾン美顔術 御染髮洗毛 美爪術電話 六七八營業所 平市駅前

